

♄の停留所 (18) ケンタウルス座

土山 紀子

菜種梅雨にメイストームに走り梅雨，そして1梅。天气が悪いですが，6月になると梅雨の叫休みに抜けるような紺碧の空が広がってきます。そんな時こそ初夏の♄座を観察するチャンス。おとめ座の南あたりの低い空を眺めてみましょう。ひとかたまりの比較的明るい♄々に気がつくと思います。これらが半人半馬のケンタウルスを象る♄々です。南天への憧憬の象徴α♄とβ♄が見えないため思わず縁遠い♄座のように感じてしまいがちですが，実は，熊本市からはケンタウルス座の大部分を見ることが出来ます。

ケンタウルス座はトレミー48♄座の一つでもある古い♄座ですが，ホメロスの時代は人間の姿とされており，前500年頃の抒情詩人ピンダルによって初めて半人半馬として描かれたようです。ケンタウルス族の住処とされるテッサリアの人々が乗馬に長けていたことから馬人伝説が生まれたと言われますが，ケンタウルス族の起源にはいくつかの説が知られています。

一つは，大神ゼウスが妻ヘラに恋慕したラピタイの王イクシオンからヘラを守るため，雲でヘラとそっくりなネフェレという女性を造り，イクシオンとネフェレからケンタウルス族が生まれたというもの。

別の説では，ゼウスの父クロノスと海の妖精フィリラの間に生まれたのがケンタウルス族というもので，賢人ケイロンのみがこの二人の子であるとする説もあります。クロノスは，フィリラとの密会を妻のレアに気付かれぬよう馬に変身していたため，クロノスとフィリラの子孫は半人半馬になったのだそうです。

ところで，天球の上にはさそり座を挟んで東と西に二人のケンタウルスが向かい合っ
て描かれていますね。そう，♄矢をつがえてさそり座の心臓を狙ういて座と，槍でおお
かみ座を突くケンタウルス座。この二人のケンタウルスは，それぞれ前も神話も混同される
ことが多かったようです。

一般的な神話では，いて座は，♄馬アスクレピオスらを育てた賢人ケイロンで，ヘラク
レスがケンタウルス族と闘った際の流れ矢で命を落としたとされています。一方ケンタウ
ルス座は，酒の神ディオニュソスの養父シレノスの子フォーロスで，ヘラクレスとは親しい
友人。ある時二人が酒を酌み交わしていると，酒の匂いをかぎつけてやってきた他のケン
タウルス族とヘラクレスの間で闘いとなり，フォーロスは仲間ケンタウルスに刺さった
矢を引き抜こうとして，矢尻に塗られたヒドラの毒にあたって死んだとされます。どちら
も善いケンタウルス族で，死ぬ際ヘラクレスが関与しているなど，よく似た神話ですね。
エラステネスはケンタウルス座をケイロンであると主張していました。

ケイロンはフィリラ (Philyra) の馬子とされますが，豎琴 (Phillyra) の馬子という別
説も残っています。こちらの神話によると，彼は豎琴から受け継いだ音楽の才を持ち，ア
ポロとアルテミスに愛され，その教えで植物学と音楽と天文学と占いと医学に熟練し，ギ
リシアの伝説上最も注目される英雄たちの教師となったということです。

ケンタウルス座は，アラビアではおおかみ座の♄と共に“葡萄の
木”とか“折れた椰子の枝”と見られており，19世紀キリスト教天文学では，
ノアの象徴あるいはアブラハムとイサクの姿などとして描かれました。



さて、偉々の星を見てみましょう。

全天3番目の輝星、-0.2等の α 星は、太陽に最も近い3重星系として有名で、単にアルファ・ケンタウリと呼ばれることが多いようです。

“ケンタウルスの足”という意味のリゲル・ケンタウルス又はリゲル・ケントという別名が知られますが、近世になってつけられた名前と考えられています。“リゲル”はオリオン座のリゲルと同じ語源。別名トリマンは“葡萄のつるの射手”という意味で、ケンタウルス族が葡萄のつるを巻いた弓を持っていたという伝説が由来とされます。

β 星（0.6等）もベータ・ケンタウリと呼ばれることが多いようですが、他にアラビア語のハダル（大地）、ワズン（重さ）という別名が知られています。これらはもともと α ・ β 両星の呼び名で地平線に近い輝星に与えられた名前と考えられ、ほ座 γ 、はと座 β 、おおいて座 δ にも同じ起源の名前がついています。

アゲナという名を見かけることもあります。これは米匠の天文学書バリットの書物に初めて見られるもので、gena（膝）と α を合成した名前と誤訳されたこともあったようですが、これは誤りで、現在は意味も起源も不明と見られているようです。

α と β を結んで伸ばすと南十字星にたどりつき、さらにそこから天の南極を知ることができるため、2星は“南の指極星”（Southern Pointers）として知られます。この2星は世界各地で対の星と見られ、アフリカのブッシュマンには「ライオンだった二人の身」、オーストラリアの先住民には「二人の兄弟」と呼ばれ、日本の八重山群島では農耕の季節を知る目安としてパイカブシ（南の星）として知られていました。

このほか θ 星（2.1等）にメンケントという名を与えている書物もありますが、一般的に認められた別名ではなさそうです。

最後に、ケンタウルス座で忘れてならないのは“ ω 星団”という俗名で親しまれる球状星団 NGC5139 でしょう。バイエルは4等の恒星と記録し、ハレーは1677年に星雲と記録。ウィリアム・ハーシエルの息子ジョン・ハーシエルによって初めて「全天最大の豊沢な堂々とした球状星団」と認められた経緯を持ちます。いて座のオメガ星雲（馬蹄形星雲）と混同されやすいので注意しましょう。熊本市での南見高さは10歳くらいです。

